

## 令和2年度 湖西市総合教育会議議事録

1 日 時 令和3年2月16日(火) 午後2時00分～午後3時15分

2 場 所 湖西市役所 市長公室

3 出席者

### (1) 構成員

市 長 影山 剛士

教育委員会

教 育 長 渡辺 宜宏

委 員 袴田 雄司 佐原 陽子 河合 禎隆 田中 ゆかり

### (2) 意見聴取のための関係者として出席した者

教 育 次 長(岡本 聡) 教 育 総 務 課 長(太田 英明)

学 校 教 育 課 長(鈴木 聖慈) 幼 児 教 育 課 長(小野田剛士)

社 会 教 育 課 長(吉原 淳) スポーツ・文化課長(尾崎 修)

教 育 総 務 課 代 理(木下 靖義)

### (3) 会議の事務のために出席した者

教 育 次 長(岡本 聡) ※再掲

教 育 総 務 課 長(太田 英明) ※再掲

教 育 総 務 課 係 長(木下 靖義) ※再掲

4 協議又は調整に係る事項

湖西市教育大綱について

学校規模の適正化について

5 協議又は調整に係る事項に関する出席者の発言

別紙のとおり

**(教育次長)** ただいまから、令和 2 年度湖西市総合教育会議を開会する。初めに、市長から挨拶をいただきたい。

(影山市長 挨拶)

**(教育次長)** 次第に従い会議を進める。協議事項(1)湖西市教育大綱について市長に発言をお願いします。

**(市長)** 教育大綱の策定については、総合教育会議において協議することになっている。簡単に理念を説明させていただきたいと思う。計画については、2021年から2025年までの5年間であり、教育大綱とそれに伴う教育振興基本計画という構成になっている。「未来(みらい)の湖西を創るひとづくり」を基本理念とし、前回の「明日(あす)の湖西を創るひとづくり」から少し変更させていただいた。

今年度は総合計画を策定しており、その中でも議論させていただいたが、これからの湖西市を背負っていく子どもたちの未来を育んでいこうという理念をしっかりと記そうという思いが込められている。基本理念に書いてある「障子を開けてみよ。外は広いぞ。」という佐吉翁の言葉を受け継ぎ、また、それに続くような人材が湖西市から羽ばたいて欲しいという思いを込めて「未来(みらい)の湖西を創るひとづくり」という理念とした。また、「ふるさとに学び、ふるさとを知り、ふるさとに応える」とあるように「職住近接」もそうだが、湖西市で学び、世のため人のためになっていただくということを湖西市の教育で実現できればと思っている。この基本理念の基に未来の湖西を作っていきたいと思う。

総合計画のキャッチフレーズは、「「ひと・自然・業(わざ)」がつながり未来へ続く わがまち K O S A I」と未来志向で物事を考えていこうとすることがうたわれている。教育大綱についても「未来(みらい)の湖西を創るひとづくり」というキャッチフレーズを提案させていただいた。持続可能な発展を続けていくために、様々な困難を着実に進めていくことをご理解いただければと思っている。

**(教育次長)** 続いて、教育大綱の概要について、事務局より説明する。

**(教育総務課長)** 今までも、教育委員会において協議また説明をさせていただいているので、教育大綱について改めて確認の説明をさせていただく。計画策定の趣旨については、令和 2 年度をもって計画が終了となることから新たな計画を策定するものである。

続いて、計画の位置づけについては、地方公共団体において、教育振興基本計画を定める場合には、教育理念やその施策の方向性の部分が「大綱」に位置づけることができるものであり、首長が総合教育会議において、教育委員会と協議し、当該の計画をもって大綱に代えることと判断した場合は、別に大綱を策定する必要はないとされており本計画をもって教育大綱と位置付けるものである。市では様々な計画があり、わかりにくいということを聞いている。本計画では、わかりやすく、具体的な事業推

進できるよう「第2次教育振興基本計画」においてはこの計画の中に、教育大綱を位置付け、さらに、生涯学習推進計画、スポーツ推進計画、子ども読書活動推進計画の要素を含んだ教育分野の総合計画として作成した。市が現在作成中の第6次湖西市総合計画の「教育部門」の計画にあたるもので、総合計画では「職住近接」の実践計画をテーマに4つの戦略を掲げ、施策に取り組んでいる。本計画では、総合計画の戦略②にあたる「教育」を中心に施策に取り組んでいくものである。

続いて、計画期間については、令和3年度から令和7年度までの5年間である。

続いて、計画の推進については、PDCAサイクルの考えに基づき、毎年度、教育委員会の事務点検・評価、また外部評価を実施し、次年度以降の施策推進や事業改善に反映させていく。

続いて、教育大綱の基本理念については、先ほど市長から述べられたとおりである。

続いて、教育目標である。今回の教育振興基本計画の変更点であるが、現行の計画は各課ごとに教育目標を掲げ、施策、事業を進めてきたが本計画では、カテゴリーごとに、「幼児教育・学校教育」、「生涯教育」、「生涯スポーツ」と3つの基本目標を掲げて事業に取り組む。組織改編など組織の見直しにも影響されず、教育委員会として事業が推進できるよう改めた。目標2の生涯学習では「生涯学習推進計画、子ども読書活動推進計画」の要素を取り込んである。目標3の生涯スポーツでは「スポーツ推進計画」の要素を取り込み、それぞれの審議会、推進協議会等を経て、施策、事業の取り組みを掲げている。未来の湖西を創る人づくりの教育理念は、各計画に掲げ進めていく。最後に、具体的な施策、事業を掲載しているが、本日の総合教育会議で協議の対象とはしない。

**(教育次長)** 市長から基本理念の説明させていただき、事務局から全体的な説明をさせていただいた。これについて委員から意見をいただきたい。最初に、袴田委員に発言をお願いします。

**(袴田委員)** 「明日(あす)の湖西」から「未来(みらい)の湖西」に言葉が変わって、すごく将来の言葉に変わったと感じる。また、佐吉翁の「障子を開けてみよ。外は広いぞ。」という言葉もあり、将来に向けて市だけで取り組むのではなく、湖西市全体で湖西市を背負っていく子どもたちを育てていくということが感じられる。民間企業の選手が子どもたちに野球や卓球を教えたりしており、皆で湖西市の子どもたちを育てていくことも一つの方法ではと感じた。

**(教育次長)** 次に、佐原委員に発言をお願いします。

**(佐原委員)** 以前に比べると、わかりやすい表現になっており良いと感じる。以前からあるが「こころざし」については良いと感じており、こころざしがある人を育てる教育を学校教育にどう取り込んでいくか、理念には入っているが、具体的にどうやって学校教育をしていくのかがわかると良い。

**(教育次長)** 次に、田中委員に発言をお願いします。

**(田中委員)** 湖西に育てられ、湖西に貢献できるような愛着心を持った子どもに育ててもらいたいという将来性を理念から感じられる。また、未来という言葉に変わったことでさらに将来に向けてということを感じる。

**(教育次長)** 次に、河合委員に発言をお願いします。

**(河合委員)** 「未来」というと10年、20年の先のイメージがあり、「明日」という目の前を大事にしたいという気持ちはある。「未来」というより「明日」の方がしっくりくる。

**(教育次長)** 委員一人ずつ意見をいただいたが、基本理念、基本目標については資料に掲載してある案のとおり教育大綱策定を進めさせていただくことでよろしいか。教育大綱策定についてはこのとおり進めさせていただく。

---

**(教育次長)** 続いて、協議事項(2)学校規模の適正化について市長に発言をお願いします。

**(市長)** 先ほどから申しているとおおり、総合計画は4月から新しいものが始まっていく。湖西市に限らず人口減少は全国的に避けて通れないもので、今、当然のように始まっている。そこをいかにして乗り越えていくか。人口減少が始まって10年以上になり、幸いこの数年間は人口減少のスピードは落ちているが、将来的な人口減少を見据えた政策をとっていかなければならない。湖西市の人口は現在5万9,000人で、隣の浜松市は現在80万人だが、将来は60万人を見込んでおり、人口減少対策として、様々なダウンサイジングや公共施設の統廃合などを進めている。

今回は総合教育会議なので、公立幼稚園・小学校・中学校について、子どもたちのために、今後どういったことをしなければいけないのか意見をいただきたいと思う。

小規模校については、小学校1年生から6年生まで、もしくは中学校3年生まで一度もクラス替えがなくずっと同じクラスである。また、人数が少なくて学校行事を成り立たせることも難しいという声を学校の先生から聞くことがある。もちろん少人数の良さはあるが、中学校では部活動ができないため他の学校に練習に行くことなどは実際に起こっている。自分たちの学校だけではなく、市全体で子どもたちのやりたいことであったり教育環境を現実的に考えないといけない。もちろん今までも、拠点化構想などで議論いただき、こども園化などを進めてきた。今度はこども園化だけではなく、公立幼稚園・小学校・中学校について、クラス替え、部活動や学校行事など、やっぱり友達が多い方が良く、同じ学校で部活動ができれば良いなど、それが全てできるかどうか分からないが、現実を見据えた学校規模を考えていかなければならない。人口減少社会の中で、湖西市の学校適正規模についてご意見をいただければと思う。最初に、教育長から現在の人数について説明していただく。

**(教育長)** 今、学校規模適正化について話があったが、平成27年1月に文部科学省から出された「公立小中学校の適正規模・適正配置に関する手引き」が、少子化に対応した活力ある学校作りに向けてというくだりがついて発出されている。手引書は、義務教育段階での学校は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質を養うことを目的としている。という文言から始まっている。このため、学校では、単に教科等の知識や技能を習得させるだけでなく、児

童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力、表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身につけることが重要になる。そのためには、一定の規模の児童生徒集団が確保されていることが望ましいものと言われている。学校規模の適正化については、小・中学校ともに12学級から18学級が理想だといわれている。先ほどいった多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することができる学級数である。ただし特別な事情があるときはこの限りではないというただし書きはついている。

先ほど市長から発言があったクラス替えがない学級についても書かれている。「複式学級はないがクラス替えができない学校規模、児童数が少ない場合には特に課題が大きい。このため児童数の状況や、さらなる小規模化の可能性、将来的に複式学級が発生する可能性も勘案し、学校統合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要がある。」ということが手引書に書かれている。

湖西市においても、湖西市立学校教育施設検討委員会を平成27年10月に設置しその年に委員会を開催した。小中学校、幼稚園のそれぞれに適正化委員会を開いてそれぞれの委員から意見をいただいている。その中の意見は、小学校においては「基準を満たしていない学校も、学校や地域の良さを生かしながら充実した教育活動が展開されていることが確認できた。」「現段階では、統合や分離学区の見直し等を行うのではなく、それぞれの良さを生かしながら現状を維持していくことが最善であると考えられる。」「しかし、校舎や給食室等、教育施設もかなり老朽化している。今後、市の計画に沿って整備をしていくことになると思うが、将来的には、統合や分離ということも考えられる。」で終わっている。幼稚園においては、「園児の推移をみたとき、今後も少子化傾向が続くことが予想される。子どもたちにとって望ましい集団規模である複数年齢複数学級を確保しながら教育していくのが望ましい。」「岡崎幼稚園の改築によるこども園化と新所幼稚園と知波田幼稚園の統合を並列順位とし、新居幼稚園をこども園化が考えられる。」で終わっている。

それにそって事業を進めてきているわけであるが、平成29年10月には教育施設地域拠点構想について中学校区での説明と意見交換をしてきた。これは、公共施設の再配置の基本計画ということで、先ほどの検討委員会の中で話されてきたことを行ってきた。それから6年が経過して市の状況も大分変わってきた。前回の検討委員会時にはそんなに大きく人口は減少してないなという印象であった。しかしこの5年間で、1学年で約440人であった人口が約330人と約100人減少しており、急激に減少しているのが実態である。校区ごとの児童生徒数が示してあるが、学校区で1桁になっているところがある。複式学級というのは2つの学年を合わせて16人、静岡県は特別に14人としているが、こういった1桁の人数については2つの学年が1つの教室で勉強するということになる。先ほどいった適正規模であるが、現在適正規模になっているのは、鷲津中、岡崎中、新居中だけであり、あとは大きい小さいかになっている。市内児童生徒数は毎年減少で推移している状況になっている。拠点構想から施設を整備した経緯については事務局から説明させる。

**(教育総務課長)** 学校教育の整備について説明する。整備については、拠点構想と公

共施設再配置計画に基づいて進めてきた。進捗状況であるが、岡崎幼稚園のこども園化は2月で終了し、4月から開始される。また、新居幼稚園のこども園化についても昨年4月から開始している。給食センターについては、学校給食施設整備の基本計画を令和3年度までに策定し、令和8年までには学校給食施設整備ができるように取り組んでいる。第2次公共施設再配置の個別計画を現在策定中で、今後は、計画的に整備を推進していく予定である。続いて、保育園・幼稚園数について幼児教育課長が説明する。

**(幼児教育課長)** 先ほど、教育総務課長の説明にあったように、新居幼稚園が今年度4月からこども園化し、岡崎幼稚園については、来年度4月からこども園化する。それに伴い内山保育園・新居保育園については今年度で閉園となる。また、令和4年4月に鷺津地区に私立保育園2園が開園予定である。幼稚園とこども園の幼稚園部の人数については、平成30年4月1日時点では681人であったが、令和3年4月1日では、449人となっている。子どもの数の減少もあるが、幼稚園に入園を希望する子どもがかなり減っている。保育園についてはほぼ定員一杯になっているので、増減は現れないが、幼稚園は減少し保育園にシフトしていることがわかる。

**(市長)** 今、説明があったが、保育園・幼稚園については、共働きが増えているということもあるが、加えて国の幼児教育無償化により、湖西市においても、幼稚園から保育園へのシフトが始まっている。待機児童がなくなったかなと思うとまた増えたりしているが、民間保育園が来年4月に開園するので充足させたいと思っている。ただ、幼稚園から保育園へのシフトが起きているので、更に幼稚園をこども園化するなど検討していかないといけないと思う。前回の委員会では、将来的に学校の統廃合を考えればいいという結論であったが、現在の子どもの人数を見ただけであればお判りいただけると思う。すべての学校ということではなく、学校規模の適正化や学校施設のあり方を順次進めていかなくてはならないと思う。それぞれの思いがあると思うので意見をいただければと思う。最初に袴田委員に発言をお願いします。

**(袴田委員)** 少し前から、子どもの数が少ないということが言われていたが、実際の数字を見ると、ここまで減るのかというのが正直の思いである。学校施設を教育委員会の中でも見学させていただいているが、すごく老朽化している。そこに対してお金をかけて整備するにしても、統廃合をせざるを得ない状況の人数ではないかと思う。部活動の送迎も大変だということもよく聞き、子どもたちのことを考えるとそういったことも考える必要があると思う。これからどのように統廃合するのかなど、学校施設について皆で考えていく必要があると思う。

**(市長)** 本日は総合教育会議なので、何かを決めるということではなく、大きなあるべき姿、大きな方向性を協議し、具体的なことはこれから詰めていくことになるので、それぞれ意見をいただければと思う。続いて、河合委員に発言をお願いします。

**(河合委員)** どうしても統廃合は進めていかなくてはいけない問題である。平成29年の教育施設地域拠点構想について中学校区での説明会にも参加したが、その時の意見として、「私たちの学校がなくなってしまうのはどういうことだ」という意見が多かった。学校がなくなると、その地域が活性化されなくなるという思いを変えさせる

にはどんなことがあるのかという部分で、学校施設を防災だけでなく、その地域を活性化させることを地域で考えていただき、地域で活性化していくことも一つの手であると思う。

**(市長)** 地域の住民の意見もあるが、子どもたちの教育環境が学校についてはまず一番である。もちろん、地域のコミュニティ機能も必要である。全国的にも統廃合の事例はいくつもあるので、その中から良い事例を取り入れることも大事なかなと思う。続いて、田中委員に発言をお願いします。

**(田中委員)** 数字を見て、心に感じるものがあり、これから先、学校規模を検討していかなくてはならないと思う一方、学校という単位で地域が成り立っており、歴史や文化などの地域の思いが込められていると思う。そういうことから学校を継続していく方向もないものかを感じる。親が通わせたい学校でいうと、給食施設整備の計画も進められているが、オーガニックなど食の安全を前面に出してもらえたら良いと思う。そうすれば、湖西市の学校に通わせたいと思う人も増えると思う。

**(市長)** 給食施設整備については計画策定を進めているが、地産地消などは続けていくことになる。学校規模の適正化とは別だが、子どもたちの安全な給食は大事なことで、引き続き研究を続けていきたい。続いて、佐原委員に発言をお願いします。

**(佐原委員)** 今後の子どもたちの学習の格差を考えたときに、情報はインターネットなどで取得することができるので、何があるかと考えたときに身体的文化資本の格差がある。身体的文化資本とは幼い頃から本物に触れることで育っていくものと言いかえることができる。本物に触れるということは、演劇や音楽の文化などに触れることで、少し前までは、市民文化センターに集まって演劇を見たり、幼稚園でも劇団の演劇を見たりという機会があった。今はそういう機会が本当に減っている。文化というものを簡単に失くしていいのかと思っている。数字を見たときに、たくさん人数がいる地域、少ない人数の地域があるが、どう触っても難しだろうと思う。一層のこと湖西市全体で、地域の子どもがどこの学校へも通うことができ、選択できるようにしてはどうか。例えば居住している地区外から通っている子どもがいた場合でも、その地域の子どもとして温かく迎え、どこから来た子どもでも、その地域で学べばその地域の子どもだというような改革をしないと解決できないのではと感じる。夢のような話だが、新しい考え方も必要かなと思う。文化的なものに触れるという機会を子どもたちには大切にしてもらいたい。

**(市長)** 地域というのは確かに大事だが、そこにとらわれているとその地域のままで残ってしまう。それには一長一短あると思うが、地域の良さを残しつつも現実の数字を見ると一桁の人数の学年で、どれだけの行事ができるのだろうか。子どもたちのことを考えたらという点をどのように考えていくのかが問題ではないかと思う。

学区の話については、民間保育園には市内全域から通っているが、公立小中学校はどうしても学区がある。一つの案であるかと思うが、現実的に考えると学校ごとの子どもの数が毎年偏ってしまうことなども考えられる。今までの学校の姿だけを求めるのは不可能かもしれないが、学校規模を適正化する中で、部活動の選択なども含めて具体的に検討を進めていくことが必要かなと思う。将来的ということではなく現実的

にいつまでにやらないといけないということを決めないといけない。

**(教育長)** 学区の自由化について話があったが、法で決まりがあるので政令都市でない湖西市では難しい。どちらかを選択するということはできない。ただ、学区の編成ということはあると思う。いろいろな意見はあったが、学校規模適正化検討委員会を開いて今後について検討していった方が良いのかなと思った。来年度早々に作って検討していきたいと思う。

**(市長)** 学区の見直しはあるかもしれないが、自由化というのは現実的ではないかなと思う。だからこそ、今のまま維持していくことは、委員の皆も言われたように、人口減少や子どもの人数から見ても難しい。学校規模適正化検討委員会で、不断に見直していかないといけない。今までもこども園化などを進めてきたし、4人の委員の意見もそうだが、学習環境を整えるのが教育委員会の業務で、地域のコミュニティ機能は副次的にある。どうしたら維持できるのか、地域からも提案いただきながら防災やコミュニティ機能などについては継続して話し合いをしていかなければならないかなと思う。子どもたちの友達が多い方がいいとか、部活動に影響がでているのかななどの問題で、具体的な学校の在り方を一緒に考えていきたいと思う。

**(教育次長)** 他に意見はあるか。それでは、市長、教育長からも意見があったが、学校施設規模の適正化について取り組みを進めていく方向を、総合教育会議の中で共有したということよろしいか。

以上で、令和2年度総合教育会議を閉会する。

閉 会            午後3時15分終了